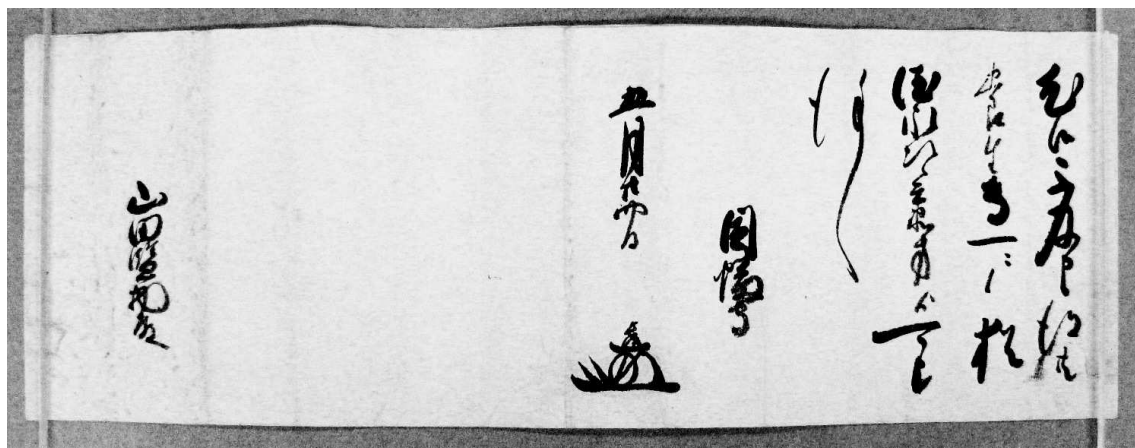
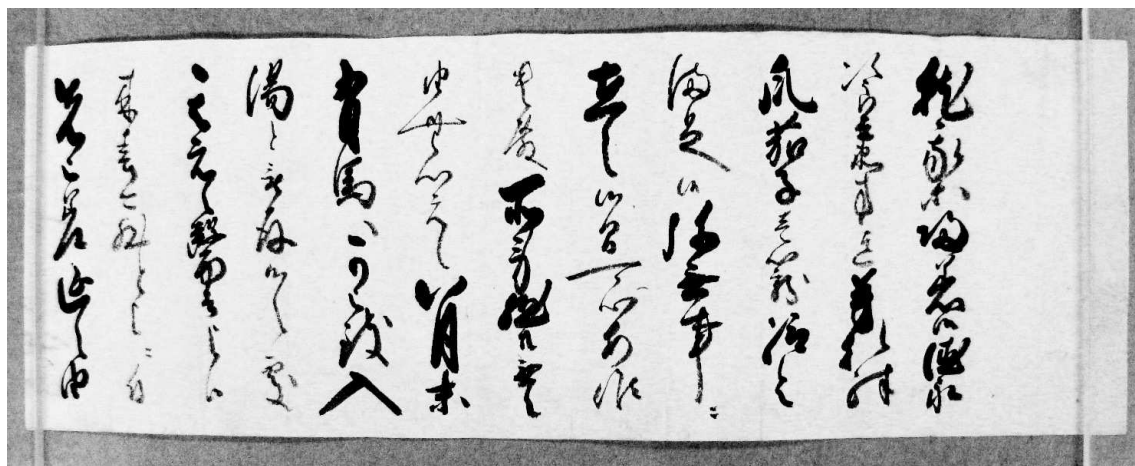


三次藩浅野家初代藩主・浅野長治書状

(年不詳)5月24日

山田家文書(8810-32-1)

三次藩初代藩主の浅野長治が、家老の山田監物に宛てた書状である。1行目に「我等帰着」とあるのは、おそらく参勤交代で江戸から帰ったという意味であろう。帰国に際して山田監物から瓜・茄子を送られたので、それに対する礼状である。書状の後半で山田監物の健康状態がすぐれなかったことが述べられている。監物は万治元年(1658)に病気で隠居するので、この書状の年代もそれに近いころであろう。



就「我等帰着候」、徳永
次良兵衛方迄芳札、殊
瓜・茄子志籠給、令二
満足一候、弥無事二
在レ之候間、可「心安」候
貴殿所勞然共無レ之
由無二心元一候、八月末
有馬へ可レ被レ致二入
湯一と被レ存候之處、
其元之醫者申候ハ、
来春可レ然と申候二付、
先被二差延一之由
尤候、不レ及レ申候得共、
養生専一二候、猶
徳永次良兵衛方より可レ申候、
謹言

因幡守
五月廿四日 長治(花押)

山田監物殿